

トゲなしユズの系統選抜

表1 トゲなし系統のトゲの特性(2015)

系統名	春枝長 (cm)	節数	節のトゲなし率 ^{z)} (%)	トゲ長 ^{z)} (mm)
6号	14.1	9.6	84.2±5.6	1.5±0.7
7号	15.7	9.6	58.9±6.2	4.2±0.7
8号	14.8	9.7	59.5±6.0	4.3±1.0
2号 ^{y)} (対照)	15.0	9.8	47.0±8.0	8.6±1.9

注) 2013年に2年生または2014年に3年生苗を場内に定植。2015年6月10日に平均5枝/樹調査。

z) ±以後の数値は標準誤差を示す。

y) 高知県試選抜2号：弱毒CTVを保毒した優良系統（香美市物部町の系統）。

表2 トゲなし系統の樹体特性(2015)

系統名	幹周 (cm)		幹周 肥大率 (%)	樹勢 ^{z)}	樹容積 ^{y)} (m ³)	せん定量 (g)
	2015年	2016年				
6号	9.6	13.9	146	4.3	4.4	550
7号	10.6	16.4	154	4.7	4.2	1,062
8号	8.3	12.4	149	3.7	2.3	558

注) 2013年3月に2年生苗または2014年に3年生苗を場内に定植。2016年2月29日調査。

z) 達観で1～5(極弱～極強)の5段階に分類。

y) せん定、誘引前の樹を用い、7かけ法{長径(m)×短径(m)×高さ(m)×0.7}により算出。



写真1 高知県試選抜6号と既存系統の春枝

ユズは枝梢に発生するトゲが長大で数も多いため、収穫やせん定等の作業性が他のカンキツ類と比べ劣ることや、トゲによる果実への刺し傷やスレ傷により青果出荷率が低下することが大きな問題となっています。また、強毒カンキツトリステザウイルス(以下CTV)に感染すると収量の低下や凸型こはん様症の多発により品質が低下します。そこで、果樹試験場ではトゲが少ない系統を探索し、「高知県試選抜6号」を選抜しました(写真1)。また、「6号」をウイルスフリー化後、異なる弱毒CTVを接種した「7号」と「8号」を育成し、これら3系統を2013年に場内及び現地



写真2 トゲなし系統の果梗枝周り

ほ場に定植して特性調査を行っています。

これまでの調査の結果、場内では「6号」のトゲなし率が高く、長さも短い傾向です(表1)。一方、樹体については「7号」の幹周やせん定量が大きく、樹勢も強い傾向が認められています(表2)。「8号」は、強毒CTVの病徴であるステムピッチングが多くみられています(データ省略)。

今後は着果が始まってからのトゲの発生状況(写真2)や果実特性を調査して、さらに選抜を行っていく予定です。

(果樹試験場 杉本達哉 088-844-1120)